

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	卵管癌における子宮内膜細胞診の有効性の検討
	研究目的	卵管癌は、術前に付属器腫瘍や腹水貯留を認め、術後に確定診断に至ることが多い。一方、子宮内膜細胞診は子宮のみならず子宮外臓器由来の悪性所見の検出にも有用とされる。1996年1月～2016年12月に卵管癌と診断された24例のうち術前に子宮内膜細胞診を実施した23例を対象とし、卵管癌における子宮内膜細胞診の有用性を明らかにする。
	研究期間	西暦 2017年7月20日～西暦 2019年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理 についての責任者	研究責任者	内山亜弥
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	婦人科 / 病理診断科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし